

第 6 期 大沼商店街活性化計画

【計画期間 R7年度 ~ R10年度】

1 現状と課題の分析

①地域概況	この地区は、豊田市の東南部に位置している山間地である。豊田市や岡崎市の中心市街地から車で40分程の場所に位置していて、高原や湖が広がる自然豊かな美しい地区である。当地区の人口は、減少傾向となっている。			
②最寄り駅	名鉄豊田市駅	③最寄り駅からの距離	21km	
④商店街区域	豊田市大沼町内			
⑤商店街区域内の商店数	23			
⑥うち組合加入店舗数	14	⑦商店街区域内の空き店舗数	4	
⑧商店街の加入店舗構成	生鮮三品 (3店20%)、衣料品(2店13.3%)、その他小売り(3店20%) 飲食店(1店6.7%)、サービス(2店13.3%)、その他(3店 20%)			
⑨商店街の特徴、強み	各店舗は規模は小さいが地域密着型で、最寄品から買回り品まで多様な店舗が存在する。地域住民からは大型店には無い細やかな対応が一定の評価をいただいている。			
⑩来街者 (主なもの一つに○)	<input type="radio"/> 高齢者		主婦	ファミリー
	<input type="radio"/> 若者		観光客	その他()
⑪来街者交通手段 (主なもの一つに○)	<input type="radio"/> 徒歩		自転車	バス
	<input type="radio"/> 自家用車		鉄道	その他()
⑫来街者の来街に要する時間 (主なもの一つに○)	<input type="radio"/> 15分未満		15分以上30分未満	30分以上1時間未満
	<input type="radio"/> 1時間以上			
⑬商店街等が抱える課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の人口減少及び高齢化、店主の高齢化や後継者不足が進み、店舗数が減少することが懸念される。 地域人口 2020年：3,979人(33.5%) 2023年：3,974人(37.3%) 2030年(推計)：3,371人(44.9%) ※() 内人口における65歳以上の割合 『下山地域カルテ2022年4月版』及び2024年4月1日現在下山地区町丁字別年齢別人口より ・新型コロナウイルス感染症拡大を契機に中止されていた誘客イベント「こぼちウオーク」について、商店街構成員の意欲が減少している。誘客事業としての代替案が必要。 ・商店街全体及び個店において高齢化が進むことで、魅力ある品揃えが困難となり、客離れが進んでいくことが懸念される。 ・2023年6月、食品・日用品を取り扱うドラッグストアチェーンが地区内に outlets し、特に労働年齢層の商店街離れが加速している。 			
⑭地域住民ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に合った商品の品揃え ・運転免許を返納した高齢者も安心して暮らせる地域 ・移住定住の前段階としての交流人口の増加 			

2 商店街の目指す将来像及び目標

①商店街の目指す将来像	地域住民の生活・コミュニティニーズに対応できる商店街。 観光客の取り込みができる商店街を目指します。
②基本目標 (4年後の達成目標数値)	アンケート調査で、売上が前年よりも増加したと回答する組合員数 R7：7者(50%) R8：9者(64%) R9：11者(79%) R10：14者(100%)

3 4 かの事業計画 ※事業ごとに作成すること

①事業名	景観整備事業(間伐事業、休憩所整備事業、植栽事業)				
	事業区分	新規・継続	事業開始年度(継続の場合のみ)		
②実施予定時期	令和7年4月～令和11年3月				
③具体的内容	<p>大沼商店街近くの山地一帯は弘法山と呼ばれており、この山のふもとからの山道に沿って大正年代初期に地元や近郷の人々が願主となって造立された大沼八十八か所弘法が祀られている。</p> <p>洞樹院門前の弘法堂を起点とする巡回コースが設けられており、平成22年～23年に山道の歩道整備事業が行われた。また、令和3年度から6年度にかけて部分修繕をトヨタ学園の地域貢献活動の協力を得て実施した。</p> <p>本計画では、景観整備のための間伐とカエデの植栽を行う。間伐はあいち森と緑づくり事業を活用し、間伐材で商店街及び弘法山に設置するベンチ・テーブルなどを作成する。植栽については、地域振興部のわくわく事業の活用を予定している。これにより大沼地区のシンボルとなる場所を創り地元住民や観光客を集客する。また、休憩所整備事業により地域住民の憩いの場を提供し、商店街の利用を促す。さらに景観整備事業に関わるトヨタ学園の学生をはじめとした若者との意見交換を実施し、商店街魅力向上のためのアイデアを収集する。</p> <p>これにより商店街の活性化につなげる。</p>				
④必要性・目的	地域住民に対しては地域の散歩道として、景観整備事業に関わるトヨタ学園の学生などに対しては、事業を発展会会員と行うことで生じる交流からの愛着醸成。観光客に対しては史跡巡りを通じて商店街での買い物や特産品の購入など集客につなげる史跡整備事業として実施する。				
⑤ターゲット・コンセプト	<p>ターゲット：大沼地域住民および豊田市、岡崎市民</p> <p>コンセプト：地域の食と史跡に興味を持たせ、地区内外の住民を商店街へ誘導する。</p>				
⑥事業費・採算性の説明	<p>間伐事業：愛知県のあいち森と緑づくり事業を活用</p> <p>休憩所整備事業：鉄筋、ボルト等資材費 100,000円</p> <p>植栽事業：1,000,000円(500,000円×2年)地域振興部わくわく補助金の活用を予定</p>				
⑦新規取組内容、改善点(先導性、先進性、モデル性等)	平成22～23年度事業で行った歩道整備の部分修繕に加え、巡回コースの整備を実施。健康志向の観光客のウォーキングコースとして整備する。				
⑧事業効果	来訪者が商店街を認知することにより新たな顧客を獲得するきっかけとし、個店の売上アップにつなげる。				
⑨目標評価指標測定手法	アンケート調査で、売上が前年よりも増加したと回答する組合員数 売上が増加した組合員数/組合員数 R7：7者(50%) R8：9者(64%) R9：11者(79%) R10：14者(100%)				
⑩推進体制	<p>景観整備事業 間伐事業：愛知県(あいち森と緑づくり事業)</p> <p>休憩所整備事業：大沼発展会</p> <p>植栽事業：大沼発展会、しもやまSSカード会、地域住民</p>				
⑪関連計画や事業(地域の動き等)	景観整備事業と並行して、新型コロナウイルス感染症以降実施されていない誘客事業(ソフト事業)の先行事例研究・検討を行い、計画後期に事業を実施、検討を行う。				
⑫計画期間の事業スケジュール	項目	7年度【1年目】	8年度【2年目】	9年度【3年目】	10年度【4年目】
	事業	間伐事業 10～3月	休憩所整備事業 11月	植栽事業 10～11月	植栽事業 10～11月
	予算(千円)		100	500	500
	関連計画や事業	誘客事業 先行事例研究会	誘客事業 先行事例研究・ 事業検討会	誘客事業 事業準備委員会	誘客事業
	市補助金の申請見込み	無	無	無	無
	目標達成状況	7者(50%)	9者(64%)	11者(79%)	14者(100%)

3 4カ年の事業計画 ※事業ごとに作成すること

①事業名	誘客事業(ソフト事業)先行事例研究・検討会、準備委員会の設置と事業実施				
	事業区分	新規・継続	事業開始年度(継続の場合のみ)		
②実施予定時期	令和7年4月～令和11年3月				
③具体的内容	新型コロナウイルス感染症以降開催が途絶えているウォークラリー事業は、地域外からの一時的な誘客としての効果はあった。イベントが中断されている状況の中、発展会構成員の中には不要とする意見もある。そこで商店街への継続した誘客のための事業として、また、イベントとして継続できる事業の先行事例研究、事業検討を実施する。				
④必要性・目的	商店街の魅力をイベントによりPRし、活気ある商店街を目指すため、また、継続できるイベントとして地域のまつりなどのタイアップも検討する。 これにより、商店街誘客事業の継続と商店街の魅力向上を図る。				
⑤ターゲット・コンセプト	誘客事業ターゲット・コンセプト ターゲット：大沼地域住民および豊田市民、景観整備事業関係者、岡崎市民 コンセプト：地域の食と史跡に興味を持たせ、地区内外の住民を商店街へ誘導する。				
⑥事業費・採算性の説明	誘客事業実施時の事業費 報償費 100,000円(アルバイト、出演料) 広告料・印刷製本費 110,000円(チラシ、ポスター印刷) 使用料及び賃借料 250,000円(テント、誘導看板等) 保険料 20,000円(損害・賠償保険) 手数料 10,000円(新聞折込、振込み料) 通信運搬費 10,000円(郵便) 参加者が3,000円の特産品を購入すれば、60万円の売上等の効果が見込める。				
⑦新規取組内容、改善点(先導性、先進性、モデル性等)	商店街への継続した誘客につながる先行事例の研究、検討会を実施する。また、今後イベントとして継続できる内容、仕組みとなる事業を計画することで、事業の継続性と商店街の活性化につなげる。				
⑧事業効果	参加者に商店街の取扱品を周知することにより新たな顧客を獲得するきっかけにし、個店の売上アップにつなげる。				
⑨目標 評価指標 測定手法	豊田市及び岡崎市の市街地住民へチラシを活用して周知し、参加者200人を目標とする。				
⑩推進体制	商工会内に参画事業者を中心とした商店街活性化委員会を設置。先行事例研究、事業検討を行い、事業を実施していく。				
⑪関連計画や事業(地域の動き等)					
⑫計画期間の事業スケジュール	項目	7年度【1年目】	8年度【2年目】	9年度【3年目】	10年度【4年目】
	事業	6月～ 先行事例研究会	4月～ 先行事例研究・ 検討会	4月～ 事業準備委員会	4月～事業計画 8月～周知 11月 実施 事業評価・見直し
	予算(千円)				500
	関連計画や事業	景観整備事業	景観整備事業	景観整備事業	景観整備事業
	市補助金の申請見込み	無	無	無	有
	目標達成状況	研究会開催回数 4回	検討会開催回数 4回	委員会開催回数 5回	参加者数 200名

4 区域内における不足等業種

① 当商店街（商工会）が掲げる不足等業種

・ なし

・

・

② 上記業種を不足等業種として掲げた理由（簡潔に）

③ その他参考情報等